

# 信州大学の留学生のニーズ調査

—— 1999年10・11月調査において ——

佐藤 友則・秋庭 裕子

**キーワード** : 留学生同士の相談、勉学面の悩み、日本語教育の要望、  
半数がアルバイト、ある程度満足

## 要旨

信州大学の留学生のニーズを把握するためにニーズ調査を実施し、留学生170人の回答を得た。その結果、①3/4の留学生が大変な困難に直面した経験を持ち、勉学・金銭・住居の悩みを多く抱えている②簡単な会話等ができる留学生であっても、日本語の授業を受けたいという希望がある③半数以上の留学生がアルバイトをしている④全体的に信州大学に満足している留学生が多い等の実態が明らかになった。それらの実態をもとに、①学内相談システムの確立と留学生への周知②民間の貸家の活用③SUN S他様々な遠隔授業装置を用いた日本語の授業実施等の提案をした。

## 1. 研究の目的

信州大学には、1999年10月1日現在、306人の留学生が勉学・研究のために在籍している。留学生の出身国は、多い順に中国・マレーシア・台湾・韓国・バングラデシュとなっており、他にもブラジル・オランダ・ケニアなど多岐に渡っている。また、日本語能力においても、日本語能力試験1級を合格している者から日常生活さえ覚束ない者まで非常に幅が広い。さらに、これが信州大学の最大の特徴であるが、留学生の生活空間も4つの街、5つのキャンパスに分散しており、留学生の問題や悩みが特化しにくい。これらを総合して考えるに、信州大学は、通常の単一キャンパスの大学以上に、それぞれの留学生のニーズを正確に把握し、それに即応していくことが求められている大学であるということが言える。そうしなければ、大変な留学生問題に発展してしまう可能性が存在している。

そこで本研究では、現在まで行われていなかった、信州大学の全留学生を対象にしたニーズ調査を行い、まず全体の状況を把握することを主要な目的とする。人文・教育・経済・理・医・工・農・繊維の8つの部局に散在している留学生を対象にニーズ調査を行い、彼らのニーズを明らかにするとともに、留学生問題解決のための有効な方策を提案していければと考える。調査は各部局単位で行われ、各部局の結果を本調査担当者がそれぞれにまとめ、部局の留学生担当者にフィードバックすることにする。それらが各部局での留学生問題解決のための何らかの情報源となれば何よりである。しかし、本論文では各部局単位での調査結果の公表はせず、信州大学全体の留学生の動向をとらえて報告し、本年度開設された留学生センターの運営、特に相談業務運営に還元することを目的としたい。

また、この調査は本年度のみの単発のものとしてせず、毎年、または隔年で実施し、信州大学の留学生ニーズの推移を逐次把握して報告していくものとしていきたい。それらのデータが蓄積され、教官・事務官に共有

されていけば、将来の深刻な留学生問題の発生を未然に防ぎ、信州大学が、留学生にとって真に過ごしやすく、満足がいく学生生活が送れる場となっていく一因となると考える。

## 2. 調査の方法

調査に用いられた調査票は、留学生の問題処理（相談業務）に関する質問、日本語能力に関する質問およびアルバイトに関する質問などについて、全15項目で作成された。さらに、性別・出身地域など4項目の属性についても質問した。被験者である留学生の負担が少なくなるように、また今後も継続して調査に応じてもらいやすいように考慮して調査項目は厳選し、できるだけ少なくなるようにした。調査用紙はB4サイズ1枚で、調査に要した時間は、個人差があるが、5分から7分程度であった。また、日本語能力が低い留学生に配慮し、日本語版のほかに中国語併記版と英語併記版を作成し、留学生に選択して実施してもらうようにした。本稿の最後に、日本語版の調査票を縮小したものを添付する。

調査は、1999年10月から11月にかけて実施された。今回の調査は、日本語・日本事情担当教官、各部局の留学生担当教官および留学生に関わる事務官の協力を得られたことによって、初めて実現が可能になった。調査の方法は部局により様々であるが、留学生から戻ってきた調査票を各部局から本調査担当者まで返送してもらい、それを集計して統計処理するという方法をとった。その結果、今回の調査には、信州大学の全留学生の半数を超える、170名の協力が得られた。その、部局毎の内訳は、共通教育30（この中には、人文・経済・工などの1、2年次留学生が混在している）、人文12、経済36、教育11、理4、医23、工31、農15、繊維8である。

## 3. 全体結果

ここでは、170名の留学生の集計結果を項目ごとにあげていく。表記してある数字は、（ ）左の数字が実数、（ ）内の数字が比率である。比率は、全て下1桁のパーセントであるが、煩雑さを避けるため、%表示を省略してある。なお、いくつかの項目については、比率による円グラフも作成して併記した。

まず、最初に、本調査に協力した留学生の属性をあげる。

性別：①男性 87 (51.2) ②女性 83 (48.8)

出身地域：①中国 95 (55.9) ②マレーシア 20 (11.8) ③台湾 15 (8.8)

④韓国 12 (7.1) ⑤バングラデシュ 7 (4.1) ⑥その他の地域 21 (12.3)

所属：①学部生 86 (50.6) ②大学院生 62 (36.5) ③研究生および聴講生 22 (12.9)

家族構成：①独身 115 (67.6) ②家族同居(子供なし) 14 (8.3)

③家族同居(子供なし) 17 (10.0) ④単身赴任 24 (14.1)

### 3-1. 相談相手

この「相談相手」では、留学生の問題処理（相談業務）に関する質問を行った。信州大学の留学生はどのような悩みを持っているのか、誰に相談しているのかなどについて調べることを目的とし、5つの項目について質問した。なお、データの信頼性を測るため、各項目のカテゴリー間の差が有意なものかどうかを、1条件の2項検定と1条件の $\chi^2$ 乗検定を用いて検定した。その検定結果も併記する。

3-1-1. 「今までに、自分一人ではどうしようもないほど、困ったことがありますか」

①ある 123 (72.4) ②ない 47 (27.6)

この項目で2項検定を行ったところ、 $z$ 値=5.75で、1%水準で有意に異なる ( $p \leq .01$ ) という結果を

得た。

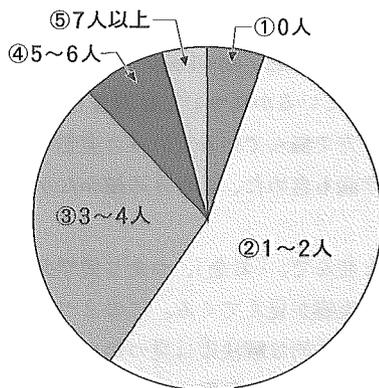
3-1-2. 「困ったときにすぐ相談できる人が何人いますか」

- ①0人 9 (5.3) ②1~2人 92 (54.1) ③3~4人 49 (28.8) ④5~6人 13 (7.6)  
⑤7人以上 7 (4.1)

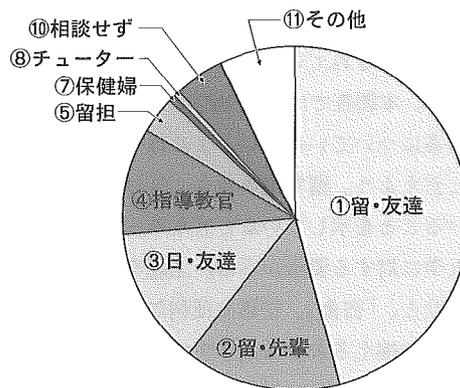
この項目では $\chi^2$ 乗検定を行い、 $\chi^2$ 乗値=158.35,  $\rho \leq .01$ という結果を得た。

3-1-3. 困った時に最初に誰に相談しますか。

- ①留学生の友達 78 (45.9) ②留学生の先輩 25 (14.7) ③日本人の友達 22 (12.9)  
④指導教官 17 (10.0) ⑤留学生担当教官 6 (3.5) ⑥留学生センター教官 0  
⑦保健婦 1 (0.6) ⑧チューター 1 (0.6) ⑨事務の人 0  
⑩誰にも相談しない 8 (4.7) ⑪その他 12 (7.1) ( $\chi^2$ 乗値=330.05,  $\rho \leq .01$ )



3-1-2. すぐ相談できる人は何人いるか？



3-1-3. 最初に誰に相談するか？

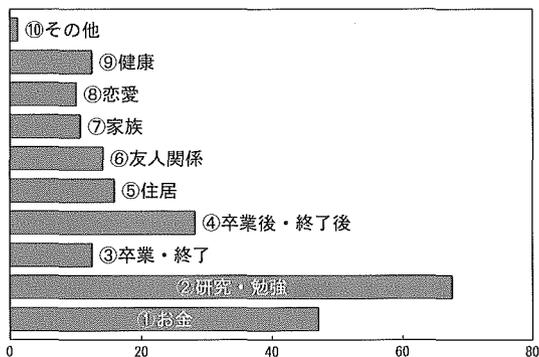
ここまでの結果から、4分の3に近い留学生在が、自分一人では解決できない何らかの問題に直面した経験があり、そのような場合に相談できる相手は、1~4人程度の親友または本当に信頼できる人であることが分かる。また、最初に相談を持ちかけるのは留学生仲間（友達・先輩合わせて60.6%）が非常に多く、チューターなどの日本人の相談担当者は、最初の相談ではそれほど活用されていないようである。しかし、今回の質問は、最初に相談する人を1人だけ選択するというものであり、それに対し、多くの留學生から「問題の内容によって相談する相手が異なる」という意見が寄せられた。よって、この設問を複数回答可とすれば、もっと幅広く、日本人相談担当者も含んだ、留學生の相談相手の実態がつかめたものとする。これは次回調査の改善事項としたい。

3-1-4. どんなことで、よく心配していますか。（複数回答可）

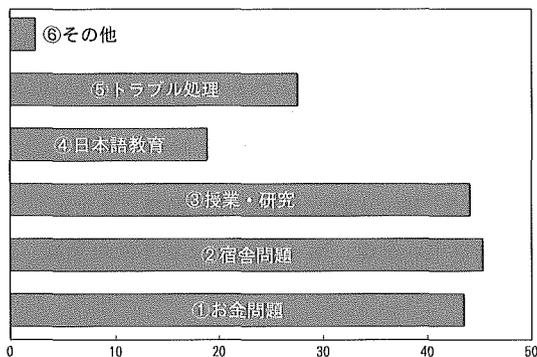
- ①お金 80 (47.1) ②研究・勉強の進み方 115 (67.6) ③卒業・修了 21 (12.4)  
④卒業後・修了後 48 (28.2) ⑤住居 27 (15.9) ⑥友人関係 24 (14.1)  
⑦家族の問題 18 (10.6) ⑧恋愛問題 17 (10.0) ⑨自分の健康 21 (12.4) ⑩その他 2 (1.2)

3-1-5. 大学にどんな要望がありますか。（複数回答可）

- ①お金の問題の解決 74 (43.5) ②宿舎の問題の解決 77 (45.3)  
③授業・研究の問題の解決 75 (44.1) ④日本語教育の問題の解決 32 (18.8)  
⑤トラブル処理に関する問題の解決 47 (27.6) ⑥その他 4 (2.4)



3-1-4. どんなことでよく心配しているか？



3-1-5. 大学に対する要望は？

どんな問題を抱えることが多いかに関しては、「研究・勉強の進め方」が全項目の中で最も多く、「お金」よりも強く問題視されていた。つまり、生活面の問題もあるにはあるが、勉学面の問題のほうが大きいということである。本調査では、具体的にどのような勉学面の問題を抱えているかについては調査しなかったが、留学生が授業についていけない、または研究の進め方や論文の書き方で悩んでいるといった実態が数値化された結果と言えよう。留学生を数多く受け入れるだけでなく、勉学面も含めた、よりきめ細かなケアが必要とされていることを示していると言える。

一方、大学に対する要望からは、上記の「勉強・研究」の問題と並んで、「お金」、つまり奨学金を含めた金銭面の援助と、「宿舍」、安価で便利な住まいの提供を望んでいる実態が見えてくる。この2つの問題は、日本中の大学が抱える大きな留学生に関わる問題であり、どこでも抜本的な解決策は見つかっていない。さらに宿舍問題に関しては、信州大学はキャンパスが分散しているため、松本・長野の2つの国際交流会館を持ち、合計した部屋数ではかなりの数になるが、それぞれの会館では留学生の要望に応じきれないという特殊事情を持つ。お金・宿舍・勉強指導と、どの問題の解決に関しても今までのやり方のみでは対応しきれないことは明らかであり、新たな創意工夫が求められている。そのために、他大学の宿舍の状況を参考にし、また、コミュニティに協力を求めていくことも必要である。

### 3-2. 日本語能力

ここでは、全項目で、カテゴリー間に1%水準の有意差が認められた。

3-2-1. 日本語で、会話ができますか。

①簡単にできる 125 (73.5) ②少しできる 42 (24.7) ③できない 3 (1.8)

3-2-2. 日本語の本や新聞が読めますか。

①簡単に読める 109 (64.1) ②少しは読める 46 (27.1) ③読めない 15 (8.8)

3-2-3. 日本語の話を聞いて理解できますか。

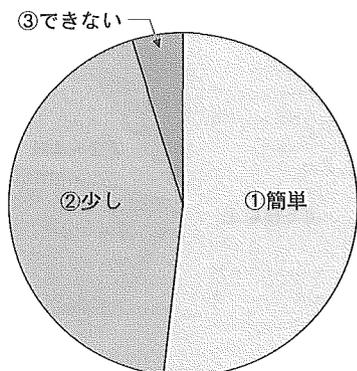
①簡単にできる 95 (55.9) ②ある程度できる 74 (43.5) ③できない 1 (0.6)

3-2-4. 日本語で手紙を書くことができますか。

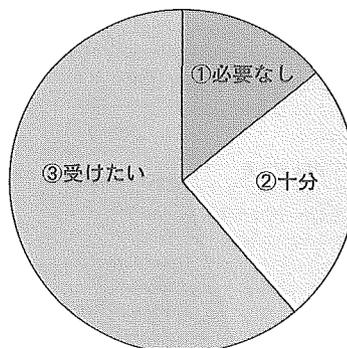
①簡単にできる 88 (51.8) ②辞書をひけばできる 74 (43.5) ③できない 8 (4.7)

3-2-5. もっと日本語の授業を多く受けていたいですか。

①必要ない 24 (14.1) ②今のままで十分だ 42 (24.7) ③受けてたい 104 (61.2)



3-2-4. 手紙が書けるか?



3-2-5. 日本語の授業を受けたいか?

ここでは「書く」に関する円グラフのみを挙げたが、4技能でみると、「話す」「読む」「聞く」「書く」の順に「簡単にできる」という数値が下がってきていることに注目される。英語で論文を書いてもよいとしている部局を除いては、日本語で手紙も簡単には書けないということは大きな問題である。論文では、手紙よりさらに高度な語彙・特殊な文型や構文の知識が必要とされるからである。留学生の「書く」能力向上のための支援が必要である。

最後の「日本語の授業を受けたいか」という質問に対しては、全体の3分の2近い61.2%の留学生が「受けない」と答えている。さらに、「会話が簡単にできる」と答えた留学生であっても、ソートしてみると、その中の57.6%が「受けない」と答えている。その他、「簡単に読める」留学生の56.0%、「簡単に聞ける」留学生の56.8%、「簡単に書ける」留学生の56.8%が「もっと日本語の授業を受けたい」としている。簡単にできることもあるが、自分の日本語能力が、勉強・研究をスムーズに進めていくには不十分だと認識している結果である。現在、通常の留学生が受講できる日本語の授業は、1, 2年次向けの「日本語・日本事情」と「日本語補講」のみである。しかし本調査により、留学生は、レポートや論文作成に必要な、より高度な日本語運用能力を習得したいという要望を持っていることが分かった。留学生に対する、質的にも量的にも充実した日本語教育支援体制の確立が必要である。

### 3-3. アルバイト

3-3-1. アルバイトをしていますか。 ①はい 93 (54.7) ②いいえ 77 (45.3)

(2項検定で有意差ありと言えず)

3-3-2. アルバイトをしている人は、1週間に何時間位していますか。

①2時間以下 9 (9.7) ②2~4時間 11 (11.8) ③4~6時間 18 (19.4)

④6時間以上 55 (59.1)

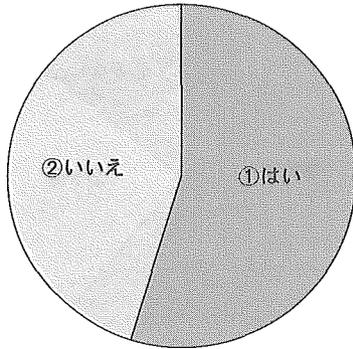
( $\chi^2$  乗値=62.16,  $\rho \leq .01$ )

3-3-3. 長い休みには、1週間に何時間位アルバイトをしますか。

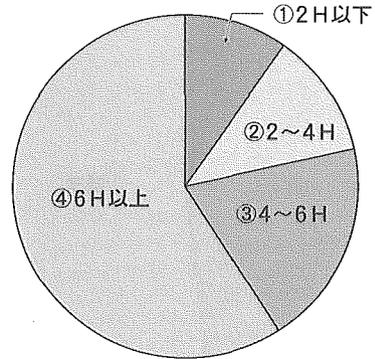
①5時間以内 18 (18.0) ②5~10時間 17 (17.0) ③10~15時間 16 (16.0)

④15~20時間 25 (25.0) ⑤20時間以上 24 (24.0)

( $\chi^2$  乗検定で有意差ありと言えず)



3-3-1. アルバイトをしているか?



3-3-2. 週に何時間しているか?

アルバイトは、3-1-5. の「お金の問題」と直結する事項であるが、現在、信州大学では、アルバイトをしている留学生（54.7%）としていない留学生（45.3%）にほぼ二分されている実態が明らかになった。信州大学では80%近くの留学生が私費留学生であるが、この私費留学生の中にも、ロータリーの米山奨学金等の何らかの奨学金を受けているか、勉学に専心するためにアルバイトをしていない者がいる程度いるようである。

一方、アルバイトをしている場合には、60%近くの者が週6時間以上のアルバイトに従事しており、勉学面の負担、日本語能力不足による負担などと合わせて、留学生の大きな負担となっている状況が推測される。

### 3-4. 総合

3-4-1. 信州大学に対する満足度をパーセンテージで教えてください。

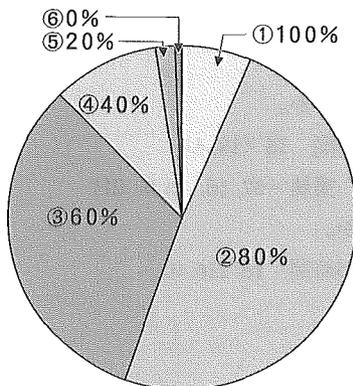
- ①満足度100% 11 (6.5) ②満足度80% 83 (48.8) ③満足度60% 55 (32.3)  
 ④満足度40% 17 (10.0) ⑤満足度20% 3 (1.8) ⑥満足度0% 1 (0.6)

( $\chi^2$  乗値=194.73,  $\rho \leq .01$ )

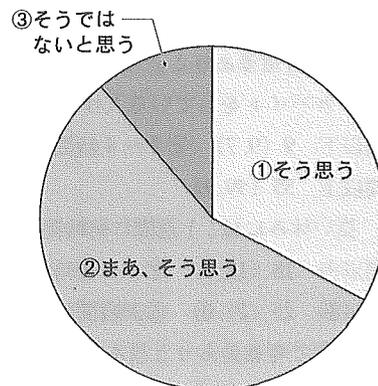
3-4-2. 他の大学に比べて、信州大学は留学生が過ごしやすい大学だと思いますか。

- ①そう思う 56 (32.9) ②まあ、そう思う 95 (55.9) ③そうではないと思う 19 (11.2)

( $\chi^2$  乗値=50.98,  $\rho \leq .01$ )



3-4-1. 信州大学に対する満足度は?



3-4-2. 他大学と比較して過ごしやすいか?

これを見ると、55.3%の留学生が「信州大学に80%または100%満足」と答えている。これは相当に高い数字であり、信州大学におけるこれまでの留学生対策が、ある程度の効果を発揮してきたことを意味している。また、他大学と比べて過ごしにくいと感じている留学生も11.2%と少数である。留学生達は、これまで述べてきたような問題を抱えつつも、全体的に信州大学に満足し、ある程度過ごしやすい大学であると認識しているようである。しかし本調査では、なぜ、どのような点で信州大学に満足しているのかについては明らかにされなかった。それを追求していくことにより、留学生が重要視していることやさほど重要視していないことが明らかになり、より効率的な留学生対策が行えるようになることも考えられる。今後の課題としたい。また、「他の大学に比べて、信州大学は留学生が過ごしやすい大学だと思いますか」という質問には、複数の留学生から「経験がないから何とも言えない」という回答が返ってきており、この質問項目には再考を要する。

#### 4. 属性毎のソート結果

この章では、属性毎にソートして顕著な差が見られたものを記述することにする。なお、出身地域によるソートは、地域毎の被験者数に大きなへだたりがあり、かつ留学生の地域毎による対応はそれほど行われていないことから、ここでは取り上げないことにする。

##### 4-1. 性別によるソート結果

3. で述べた全体の集計結果を、男性と女性という属性でソートしたところ、以下のような点で大きな相違が見られた。まず、3-1-4. の「どんなことでよく心配しているか」という質問で、「お金」の問題をあげた留学生は、男性のほうが女性よりも23.7ポイント（以下 pt と記述する）も多い。同様に3-1-5. の「大学への要望」でも、「お金の問題の解決」を望んだ男性は、女性よりも23.9pt 多くいた。また、このことと関係するが、アルバイトをしている男性は女性よりも12.7pt 多くいる。これらから、経済的に困窮している留学生は、女性よりも男性のほうが多いと推測される。また、信州大学に対する満足度についても差が見られた。大学に対して60%~100%満足と答えた女性は、男性よりも22.8pt も多くいた。また「他大学と比較して過ごしやすいと思うか」という質問に対しても、女性のほうが男性よりも13.4pt 多く「そう思う」と答えている。このことと、上記の経済的問題には何らかの関連があるのではないだろうか。経済的に問題を感じていないことが、大学に対する満足度につながっていると見ることができそうである。

##### 4-2. 所属によるソート結果

「困ったことがあるか」という質問に対し、学部生64.0%、大学院生83.9%、研究・聴講生（以下、研究生と記述する）72.7%と、大学院生と学部生とでは相当な差がある。また、悩みの内容については、研究生が「勉強・研究」を最も多くあげており（86.4%）、学部生は「卒業後の進路」を多くあげている。また学部生は、「友人関係」「恋愛」の悩みも、大学院生・研究生より多い。また「宿舎」の問題を学部生が多くあげているのは、国際交流会館の退去の問題が大きいためと考える。日本語能力に関しては、研究生の能力不足が目立ち、そのためか日本語の授業への要望も最も大きい。学部生と大学院生との差は、それほど大きくない。アルバイトに関しては、学部生72.1%、大学院生33.9%、研究生45.5%と、かなりの数の学部生がアルバイトをしている実態が見える。奨学金等を受けにくいことと関係があらう。

##### 4-3. 家族構成によるソート結果

このソートでは、それほど顕著な差は見られなかった。「独身」以外は、「恋愛」の悩みが0%で、「友人関

係」の悩みが少なかったことぐらいである。

## 5. 考察と今後の課題

ここまで述べてきた信州大学の留学生ニーズ調査の結果をまとめると以下ようになる。

まず、留学生の4分の3が何らかの大きな困難に直面した経験を持っており、そうした際、最初に相談するのは留学生の友人または先輩である。そういった留学生レベルで解決できる問題ならばいいが、より深刻な問題に直面した場合には解決が難しくなるか、かえって問題をこじらせる危険性もある。それを回避するためには、各部局や留学生センターなど、大学レベルでのバックアップ体制をより拡充させ、それを留学生に丁寧に周知し、現在よりも留学生に頼られる存在になっていく必要があるだろう。「本当に困った際にはあそこに行けばいい」という存在があること自体、留学生の精神的な支えになると思われる。

留学生の悩みとしては、研究・勉強の進め方に対するものが大きく、勉学面で不安や悩みを抱えている留学生が多い実態が浮かび上がっている。また、大学に対する要望としては、勉学面と並び、お金と住居の問題がクローズアップされていた。これらの問題の解決には、これまでのやり方に固執するのではなく、より柔軟な対応と工夫が求められている。留学生に対する奨学金の提供先を広く全国レベルで探す、日本人ボランティアを活用した日本語会話や生活支援のシステムを構築する、借り手がなかなか見つからない空家を借り上げ、数人の留学生に安く貸与するなど、新たな方法を模索すべき時である。

大学への要望では、「日本語教育の問題の解決」はそれほど大きな数値になっていないが、それは「授業・研究の問題の解決」に吸収されたためと考える。日本語能力不足と、授業・研究の悩みとは密接に関連しているものだからである。そのことは、ある程度の日本語能力を持っているにも関わらず、「日本語の授業を受けたい」と答えた留学生が多く存在したことからも言える。例をあげると、大学院に直接入学した留学生の場合、簡単な会話ができ、日本語の手紙くらいは書いても、「日本語・日本事情」を受講することはできず、現在の「日本語補講」では論文の指導といった中上級レベルの講義は行われていないため、専門の授業の聴き取りや日本語による論文執筆には相当な苦労を強いられる。また、初級レベルの留学生であっても、補講の絶対数が少ないため、選択の余地が少なく、時間が合わないために行かなくなるという実態がある。信州大学では、各キャンパスが分散しているため、日本語の授業の集中化が難しいという問題はあがあるが、SUNSや新潟大学で実施している遠隔授業システムの有効利用などにより、日本語教育を拡充させていく必要がある。

アルバイトに関しては、約半数の留学生が従事しており、さらに従事している者は、かなりの時間をそれに割いていることが分かった。実際に、アルバイトが夜遅くまでであるため、1限の授業を受講できない者もあり、国際交流会館退去後の宿舎の問題とも絡み合っており、留学生生活の大きな負担要因となっている。アルバイトの中には、留学生の日本語能力向上や、日本社会への理解を進めるいい機会になっているものもあるが、単にお金の入手のために行われているものも多い。留学生が無理なアルバイトをしなくても、不安なく大学生活を送れるような環境整備が重要である。また、本調査では、アルバイトの表面的な実態を調べるにとどまったが、今後の調査では、奨学金受給とアルバイトの有無の相関および奨学金受給金額とアルバイト時間数の相関にも注目していきたい。

最後の信州大学への満足度に関しては、概ね良好と言える結果が得られた。しかしこれに満足せず、4分の3以上の留学生が「80%または100%満足」と答える環境を目指していくべきであろう。そのためには、これまで述べてきたような留学生に関わる難題を明らかにし、地道に、かつ柔軟に工夫しながら解決してい

く姿勢が必要である。

最後に、今後の調査の課題をあげる。本調査を実施し、集計していく上で、今回の調査票の問題点が浮き彫りになってきた。以下、今後の変更方針を数点あげる。

- ①今回は、共通教育で得たデータに、多くの部局の留学生の結果が混在していたため、今後は、属性に部局名を加え、部局毎の正確なデータを得て、フィードバックしていきたい。
- ②3-1-3. で「困ったときに最初に相談する人」として1人だけを選ばせていたが、これでは留学生の相談相手の全体像をつかむには不適切であった。よって今後の調査では「困ったときに相談する人」とし、複数回答可とする。
- ③3-1-5. の「大学に対する要望」の項目は、3-1-4. の「よく心配していること」の項目と対応していないので、それと対応するように「就職の問題の解決」「人間関係の問題の解決」などの項目を加える。
- ④アルバイトとの関連性を見るため、属性に「奨学金を受給しているか」「受給している場合、いくらぐらいか」という項目を加える。

さらに、調査票の変更の他にも、今後の課題として、調査の方法の見直しをあげたい。今回の調査では、各部局毎に努力・工夫して調査を実施してもらったが、次回は郵送なども利用し、留学生にこの調査の意図と実施内容を周知し、より協力を得やすいようにしていきたい。また、今回の調査結果は留学生にも郵送し、それが今後の留学生環境改善に寄与していくことを伝える。そのようにして、この調査が継続的に行われるものだという認識を持たせ、留学生自身が積極的にこの調査に関与するようにしていければと考えている。

最後に、本調査は、留学生センター開設以来、初めての全学的ニーズ調査であると言える。その意味で、調査協力を依頼したことにより、本センターの存在を留学生達に認知させることができたことは、意味があることと言える。今後は、この調査をもとに、本センターと他部局との連携を強めて留学生支援体制の充実に努めるだけでなく、本センターを中心とした大学関係者と留学生との意見交換がより活発になることを期待したい。

## 謝辞

今回の調査には、日本語・日本事情担当の徳井教官、留学生センターの上條教官、人文学部の坂口教官、教育学部の城倉事務官、理学部の神澤事務官、医学部の牧教官、工学部の高野教官、農学部の橋倉事務官、繊維学部の福澤事務官、ほか多くの方々の協力を得て実現が可能になりました。この場を借りて、心からの感謝の意を表します。

## 【参考文献】

- 若林 秀明 1999 「オーストラリアの大学におけるニーズ分析」  
『世界の日本語教育』 第9号
- 佐藤 友則 1998 「韓国および台湾の日本語学習者のニーズ調査」  
『東北大学言語学科論集』 第2号
- 佐藤 友則 1997 「韓国の大学の日本語学習者に対するニーズ分析」  
『日本学報』 39号 韓国日本学会編
- 日本語教育学会 1991 『日本語教育機関におけるコースデザイン』 凡人社

- 中西・茅野 1991 『日本語を教える3 実践日本語教授法』 バベルプレス  
田中・斎藤 1993 『日本語教育の理論と実際 学習支援システムの開発』 大修館

【参考資料】（調査に用いられた調査票）

留学生のニーズ調査

この調査は、留学生の皆さんの今の状態を聞いて、信州大学が、どうやって皆さんの問題を解決していくかを考えるためのものです。信州大学の留学生全体のデータとして使い、個人の情報がもれるようなことはありません。また、この調査は、今後も定期的に行う予定です。よろしくお願ひします。では、質問に対する答えを、それぞれ1つだけ選んでチェックしてください。

1. 相談相手

- 1-1. 今までに、自分一人ではどうしようもないほど、困ったことがありますか。 ①ある ②ない
- 1-2. 困った時にすぐ相談できる人が何人いますか。  
①0人 ②1～2人 ③3～4人 ④5～6人 ⑤7人以上
- 1-3. 困った時に最初に誰に相談しますか。  
①留学生の友達 ②留学生の先輩 ③日本人の友達 ④指導教官 ⑤学部の留学生担当教官  
⑥留学生センター教官 ⑦保健婦 ⑧チューター ⑨事務の人  
⑩誰にも相談しない ⑪その他（ ）
- 1-4. どんなことで、よく心配していますか。（複数回答可）  
①お金 ②研究・勉強の進み方 ③卒業・修了 ④卒業後・修了後 ⑤住居  
⑥友人関係 ⑦家族の問題 ⑧恋愛問題 ⑨自分の健康 ⑩その他（ ）
- 1-5. 大学にどんな要望がありますか。（複数回答可）  
①お金の問題の解決 ②宿舎の問題の解決 ③授業・研究の問題の解決  
④日本語教育の問題の解決 ⑤トラブル処理に関する問題の解決  
⑥その他（ ）

2. 日本語能力

- 2-1. 日本語で、会話ができますか。 ①簡単にできる ②少しできる ③できない
- 2-2. 日本語の本や新聞が読めますか。 ①簡単に読める ②少しは読める ③読めない
- 2-3. 日本語の話を聞いて理解できますか。 ①簡単にできる ②ある程度できる ③できない
- 2-4. 日本語で手紙を書くことができますか。 ①簡単にできる ②辞書をひけばできる ③できない
- 2-5. もっと日本語の授業を多く受けたいですか。 ①必要ない ②今のままで十分だ ③受けたい

3. アルバイト

- 3-1. アルバイトをしていますか。 ①はい ②いいえ
- 3-2. アルバイトをしている人は、1週間に何時間位していますか。  
①2時間以下 ②2～4時間 ③4～6時間 ④6時間以上
- 3-3. 長い休みには、1週間に何時間位アルバイトをしますか。  
①5時間以内 ②5～10時間 ③10～15時間 ④15～20時間 ⑤20時間以上

4. 総合

- 4-1. 信州大学に対する満足度をパーセンテージで答えてください。  
①満足度100% ②満足度80% ③満足度60% ④満足度40% ⑤満足度20% ⑥満足度0%

4-2. 他の大学に比べて、信州大学は留学生が過ごしやすい大学だと思いますか。

- ① そう思う    ② まあ、そう思う    ③ そうではないと思う

[その他]

1. 男性    女性

2. 出身地域

- ① 中国    ② マレーシア    ③ 台湾    ④ 韓国    ⑤ バングラデシュ    ⑥ その他の

3. 所属

- ① 学部生    ② 大学院生    ③ 研究生および聴講生

4. 家族構成

- ① 独身    ② 家族と同居（子供なし）    ③ 家族と同居（子供あり）    ④ 単身赴任